

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293100028		
法人名	社会福祉法人 天祐会		
事業所名	グループホーム天羽苑		
所在地	千葉県富津市不入斗224-1		
自己評価作成日	平成24年11月10日	評価結果市町村受理日	平成25年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成24年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>都会にはないのびのびとした自然の環境の中で、利用者様は毎日時間に追われることなくのんびりと暮らしています。当苑ではその自然を皆様感じていただきながらの散歩は毎日の日課にしております。毎日レクリエーションで体を動かしたり、歌を歌ったりした後は、職員と一緒にお茶を飲む時間も日課としています。利用者様第一に考えた支援をさせていただき、安心して暮らしていただけるようなサービスを心がけております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>4月に法人理事長が代替わりし、新しい風のもと、改めて法人理念に基づいたサービスを見つめなおしている。理念の文言にある「知識」「技術」「心」をホーム内に掲げ、パンフレットには、方針としてやさしさ、思いやり、あたたかさのある支援を心がけると謳っている。グループホーム本来の役割である認知症ケアに力を入れている。センター方式アセスメントシートを活用して認知症高齢者のより深い理解を心がけ、個別ニーズを把握した支援を行うよう努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に法人理念を掲げている。職員の入職の際にも理念を説明している。利用者第一のサービスとすることを徹底して職員に伝えている	入社時の新人研修において理念方針の理解を求め徹底を図っている。ホーム内に法人理念の核心語句である「知識」「技術」「心」を掲示し、意識喚起と周知をしている。	法人理念に基く、より具体的なホームの実践目標や職員個人ごとの取組目標を設定し、理念の実現性を高めることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者は地域の推進委員のメンバーになっており、地域の行事に参加したり、利用者は小学校や幼稚園との交流会も行っている	ホームは、住宅が散在する田園地域に立地していることから、近隣住民との交流を重視し、積極的に深化を図っている。地域の小学校、幼稚園との交流は定期行事として定着している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と職員で地元のスーパーへ買い物に行ったり、近所を散歩したりして、認知症がある方への理解を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況と行事報告は毎回説明している。地域の方の意見を受け止め職員と検討し、より良いサービスが提供できるよう取り組んでいる	家族の参加を促すため、開催日を土日の休日とし、かつ他の行事と関連付けるようにしている。市職員、地域代表等が参加し、近況報告とともに市職員の講話や活発な質疑応答があり、充実した会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護者3名入所しており、利用料の支払いに来苑したり、管理者が介護認定審査会の委員を務めている関係上、市の職員との情報交換や連携は構築できている	運営推進会議への出席の他に、管理者は日常的な情報交換と協力体制づくりに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の研修に積極的に申し込み参加をしている。家族には入所の際に身体拘束はしないことを説明している。職員会議や業務の中で浸透させている	外部研修会に参加した際は、職員会議等で報告し、全職員の共有を図っている。日常ケアについては職員相互にチェックしあえる環境作りに管理者、ケアマネジャーが留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修があれば積極的に参加させている。併設のデイサービスの利用者の身体状況を入浴の際に把握し、観察している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は外部研修で学ぶ機会があれば参加させたい意向。管理者以外はなかなか学ぶ機会がないのが現状		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面だけではなく、口頭にて説明し後でトラブルにならないように理解をいただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会などの来苑時には、日頃の利用者の様子を報告し、家族と話す機会を設けている。その中で苑に対しての要望や意見を聞いている	家族のホーム来訪時に意思疎通を図るよう努めている。家族を通して利用者からの要望が上がることもあるが、できる限り反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常の業務の中で、意見を聞いたりしている。その後会議等で話し合い改善点等を決めている	月1回の職員会議ではサービスに関することやホーム運営について、具体的に話し合っている。職員の個人的な事案については、管理者が随時または年2回の個人面接時に聞き取るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はこまめに施設を巡回し、施設の問題点や職員の要望・意見等を聞いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部の研修を設けたりし、職員の人材育成に努めている。また月に一度の施設長会議でも研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や勉強会などの参加は積極的にし、他施設職員との交流や情報交換の場を多く持つよう理解している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は必ず利用者との関わりを持って業務にあたっている。三時のおやつの中には、一緒に座り会話の中で利用者の話を聞き、確認している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所翌日には必ず、ご家族に状況を報告している。面会時には必ずご家族と話をしたり、細かなことも家族に連絡し確認している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の身体状況や精神状況に加え、家族の介護負担も考え、ご本人とご家族にとってより良い支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の残存能力に応じて自分で行うことはしてもらい、できない所を職員がお手伝いする。買い物などへもなるべく利用者で行くようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員で一緒に利用者を支え合えるように連絡を密にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にはなるべく面会を多くしていただけるようお願いしている。家族との外出や外泊も積極的にしていただいている	家族の状況によっても差はあるが、できるだけ外泊したり、お墓参りなどに行けるように協力を求め、利用者の希望に沿った支援ができるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は居室にこもらず、孤独にならないようにレクリエーションをしたり、働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入所の為の退所であれば、時々施設に面会に行ったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、本人の希望や要望を聞き確認している	センター方式アセスメントシートを活用し、認知症高齢者のより深い理解を心がけている。併せて家族に利用者個人票を作成してもらっている。データに基づき、個別ニーズを把握した支援を行うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には家族より生活歴を詳しく聞いて、苑での生活が今までとあまり変わらないように支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況や精神状況を日々様子観察して把握している。ひとりひとり違うのでその人に合った身体生活支援をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議の中で、職員で意見を出し合い、問題や課題を上げ、そのことについて検討する	毎月のグループホーム会議で職員が意見を出し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。意見交換は活発で、毎日30分の散歩を日課にする、出来る範囲での掃除など、個別の状況に合わせた計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別にケース記録に記入し、出勤時には申し送りノートやケース記録に必ず目をとおしてから業務につく様に徹底している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人それぞれのニーズや状況に合わせた対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方にも協力していただきながら、安全に安心して地域で暮らせるように見守りながら支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員協力病院による居宅療養管理指導にて健康相談、健康維持、健康管理をしていただき、24時間対応にて看護師派遣や医師の往診を受けている。	提携の医師が毎月2回訪問診療に来ている他、24時間365日相談できる体制が整っている。体調の変化に応じて点滴をする利用者などもおり、看取り介護も実施している。提携病院以外の受診は家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者の身体状況を常に把握し、変化に対して早急な対応で協力病院と連携している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は時々様子を見に行ったりしている。その際には必ずソーシャルワーカーとも面会し、連携している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設や協力病院が連携して支援できる範囲内で医師・看護師、家族、本人、職員で話し合いの場を設け、方向性を統一して家族の意向に対して同意書をいただいている	居宅療養管理指導にて提携の医師および看護師が24時間365日対応してくれるため、看取り介護は可能であり、可能な範囲で実施している。今後は認知症ケアに特化し、重度化した場合は同法人の特養への移行を進めるなどの方向を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の緊急時に全情報がわかるファイルを作成したり、マニュアルを作成したりして会議等で説明している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震災害等のマニュアルをすぐに見られる場所に置いてある。防災訓練に関しては、自主訓練、消防署員の立ち合いの訓練を実施している	消防署とは馴染みの関係であり、年2回消防訓練を実施している。備蓄、充電式発電機なども用意し、職員の連絡網も完備している。今後はツイッターを通じて安否情報を流す体制づくりも検討している。	今後の課題として、地域との協力体制について、さらに進めていくことが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者はお客様であり目上の方であるということを職員に認識させ利用者第一とすることを徹底している。やさしい声掛け、否定的ではなく受容的な姿勢で接している	グループホーム本来の役割である認知症ケアに力を入れており、尊厳を大切にされた対応を心がけているが、利用者それぞれの呼称については、本人、家族の希望、同意を得て、ニックネームで呼ぶこともある。言葉かけで気になることがある場合は、管理者がその場で注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の好みや外出したい場所など、日常会話の中で確認、把握している。そして自己決定できるよう職員も心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的なサービスを提供する場なので、利用者優先で決めて職員の思いや都合を優先してはいけないことを教育している。その人に合ったペースで支援するようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活習慣は大切にし、歯磨き洗顔、手洗い、うがい、整容、着替えなど身だしなみは大切にしている。衣類に関しても準備の時に本人の希望や好みで選んでいただいたりする		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態は個人に合わせて提供している。食べたいものを聞いたり、外食に出かけたり、ときにはメニューをみていただき、出前の日を設けたりして、自己決定していただいている。片付けはできる範囲でしていただいている	食事はグループホームとデイサービスの分を一つの厨房で作っている。職員はシフトに基づき、厨房に入る日が決まっている。行事食、外食もあり、希望に応じて朝食のパンを菓子パンにすることができるなど、食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は食事摂取量、水分摂取量は常に把握して、r。摂取量が不十分な方には栄養補助食品を利用したり、食事形態を変えてみたりして摂取できるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は必ず口腔ケアは欠かさない。義歯については、毎日就寝前に洗浄して翌朝装着するよにして清潔を保っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンを確認して、トイレ誘導したり声掛けをしたりして自立または現状維持できるように支援している	便秘予防に朝はバナナ、おやつにヨーグルトか野菜ジュースを提供している。チェック表に基づいて個別に声掛けし、おむつから自立して排泄できるようになった利用者も多いとのことである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に排泄パターンを把握し、野菜ジュースやバナナ、ヨーグルト等を摂取していただき便秘予防をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本的には隔日としている。平日は個室で、土日は大浴槽にするなど、変化を楽しんでいただいている	ホームに大型の浴槽が設置されているが介助しづらいため、併設のデイのリフト浴またはケアホームの個室を使用している。浴室には風景写真を貼って気分が変わるようにしており、ほぼ一日おきに入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個人のペースに合わせて無理のない生活を支援している。日中はカラオケやレクリエーション、散歩、適度な運動をして夜間はゆっくり休めるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に個人ファイルを作成したり、薬手帳を管理したりしている。職員は利用者の薬のセットは担当者となって責任を持たせている。薬剤師が月に2回来苑し、利用者の状況を報告したり、相談にのっていただいている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内にこもらないように、散歩は毎日の日課としており、ドライブや外出も取り入れ、気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたい場所は本人に確認している。また家族との外出も面会時をお願いするなどして生活の変化や楽しみを持っていただけるようにしている	日常的な散歩や体を動かすことには力を入れている。また、併設のデイサービスの車を使い、月1回は全員で花見や外食などに出かけて楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については全員施設で管理させていた だいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族に連絡したいときには、事務所に 来て電話をしている。また時々友人より 手紙等が届いた場合は本人に手渡してい る		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をま ねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がな いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、 居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出や行事参加した時の写真を掲示してい る。室内の飾りも季節によって変えたり、し ている。最近は動物のぬいぐるみが人気で 抱いたりしていると安心感があるようです	ガラス張りで天井が高いホームは日当たり がよく、外には自然が広がる環境である。フ ロアが広く、室内運動会なども実施してい る。温度や湿度の管理には気を配り、季節を 意識した装飾をしている。清掃は職員と利用 者で毎日行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	共用の談話室にて日中ほとんど過ごされて います。ソファを置いてあるので、そこで 利用者同士会話したりされています。自分 の居室で休みたいときは自由に居室で過ご されています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相 談しながら、使い慣れたものや好みのものを活か して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をして いる	居室は全て個室になっており、入所時には 家族に今まで使用していた愛用品を持って きていただけるようにお話をしている。新し いものを持ってくると混乱し、不穏状態にな りやすいので願っている	居室には自由に家具を持ち込めるようになっ ている。家族は新しい家具を揃えがちなた め、今まで使っていたものを持ってきてもら い、環境が変わっても不安に陥らないよう配 慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかるこ と」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	職員は利用者ができること、できないことの 見極めをしっかりと、危険なものは排除 し安全で快適に生活できるように工夫して いる		

【評価機関】